

日本医師会 第10回

赤ひげ賞

第10回赤ひげ大賞 (5人、順列は北から)

- 植田 俊郎 (岩 手) 植田医院院長
- 市川 晋一 (秋 田) 仙北市西明寺診療所、同市松木内診療所所長
- 藤村 総 (埼 玉) シャローム病院院長
- 大石 雅之 (神奈川) 大石クリニック院長
- 佐藤 立行 (熊 本) 佐藤医院院長

体が続く限り地域貢献

地域で献身的な医療に取り組む医師を顕彰する第10回「日本医師会 赤ひげ大賞」(主催・日本医師会、産経新聞社、特別協賛・太陽生命保険)の大賞5人と功労賞13人の受賞者が決まった。大賞を受賞した5人の医師の日々の活動と功労賞受賞者を紹介する。



優しい表情で患者の緊張をほぐす植田俊郎医師 一岩手県大槌町(啓名中撮影)

うえた・としろう 植田医院院長。昭和29年、岩手県大槌町生まれ。67歳。金沢医科大学卒業。日本医科大学第一内科に入局し東京都立駒込病院循環器科や白十字総合病院内科へ出向。釜石市民病院放射線科長・内科医員を経て植田医院を継承創業した。平成14年から釜石医師会副会長。

救助された翌朝、避難所で診療再開

植田俊郎氏(岩手県大槌町) 震災2年後に自ら出版した写真集「大槌の津波」の記録を思い出して出かけた。大槌の町は、津波を解脱して復興し、津波被害の貴重記録として津波が写った。最初の一枚は妻をなまめしむ。津波をよびながら通り来る大槌津波。時間は15時21分。津波の先陣から自宅兼診療所まで50m近い距離があるように見えた。 だが、「15時22分32秒」の4枚目は、津波が押し寄せた瞬間に写った。わずか1、2分間で4階建ての自宅兼診療所が津波に押しつぶされ、3階まで浸水。 「妻の津波で亡くなった。写真集を2年かかって自ら出版した。この体験を改めて伝えていかなければいけない」と思った。



日本医師会 中川俊男会長

新型コロナウイルス感染症の関わりも3年目となりました。医療提供体制が逼迫するなかにおいて、日本国の医療従事者はコロナ医療でコロナ以外の通常の医療の両方を死守するべく奮闘して力をつけています。地域医療の現場で長年にわたり地域住民に寄り添い、地道に尽力されている先生方を、現代の赤ひげ先生に見立て、功労賞を授けたい。功労賞に顕彰するこの赤ひげ大賞は、平成24年の創設から10年の節目を迎えし

地域医療の充実に向け全力

各県の先生方の御志となり、地域医療のさらなる充実と後進の育成へつなげることを願っています。また、功労賞に顕彰された先生方、いずれも献身的に医療活動に専念し、患者さんの信頼も厚い。まさに赤ひげ先生と呼ぶにふさわしい方ばかりです。 受賞された先生方をはじめ、全国には限りなく熱意もついで地域医療に取り組む医師大勢がいると思います。その素晴らしい活動がコロナ禍において継続され、さらなる地域医療の充実につながっていくよう、日本医師会としても、そのバックアップに全力を傾けてまいります。



太陽生命保険 副島直樹社長

「赤ひげ大賞」を受賞された5人の皆さま、ならびに「赤ひげ功労賞」を受賞された皆さま、誠にありがとうございます。2021年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症が世界的猛威を振るう年となりました。そのなかで、新型コロナウイルス対策に尽力された先生方の功績に、心から敬意を表するともに、深く感謝申し上げます。 10周年となる赤ひげ大賞の選考会に、今年も参加させていただきます。例年以上に困難な状況のなか、地域に根差し、人々に寄り添

現場での献身的な姿に感銘

い、医療現場の最前線で地域医療のために献身的に活動される皆さまの姿に感銘を受けました。 当社も社会保険制度の補完を使命とする保険会社の責務を全うすべく、確実に保険金をお支払いするという従来の役割に加え、疾病の予防と健康が一体となった商品の提供を通じて、お客さまの健康増進をサポートしています。地域に寄り添い、地域住民の健康を支える先生方の姿に、お客さまの安心と豊かな暮らしを支える保険会社であるため、これらも取り組みを進めてまいります。 最後になりますが、この赤ひげ大賞をより多くの方々に知っていただくために、地域医療の充実と理解促進につながることを願っており、これらもご支援させていただきます。

26日 BSフジで特別番組を放送

「密着！ かかりつけ医たちの奮闘～第10回赤ひげ大賞受賞者～」 放送日：3月26日(土) 14:00～14:55

- 【主 催】 日本医師会、産経新聞社
- 【後 援】 厚生労働省、フジテレビ、BSフジ
- 【協 力】 都道府県医師会
- 【特別協賛】 太陽生命保険株式会社

名著と出会い農村医療の道を志す

秋田県の東部に位置する仙北市(この市旧庄内町)西木地区の唯一の医師として20年以上にわたる。住民の健康を預かっている。住民の健康を預かっている。約4倍もあるのは住民が約4千人、山奥まで住居が点在して冬の間はほとんど閉鎖状態。移動も大変な高齢者が多くに「住民に寄りかかるといって、診察所は、訪問診療や出向の林業組合セーターの箱を借り、分けてもらって、月一先生の名前「村で病気をうつ」兵衛道路町の高野の長男として生まれ、秋田は「はつなかり」がながい。高校時代に「農村医療を志す」高橋しげと「農村医療を志す」村で病気をうつ。 「一を志す、農村医療の医師を志した」といふ。 入塾を志したが秋田大学の医師科。そこで、秋田の人の優しさに触れ、その地で農村医療に実践することを決意した。 大学では、多くの高齢者が関係する診療科を専門に進む大時へ、修了後の昭和60年、当時のJ・仙北組合総合病院へ入



診療の際、気さくに話しかける市川晋一医師 一秋田県仙北市

いちかわ・しんいち 仙北市西明寺診療所・松木内診療所所長。昭和26年、兵庫県姫路市生まれ。70歳。秋田大学大学院医学研究科修了。J.A仙北組合総合病院(現大曲厚生医療センター)泌尿器科科長を経て、平成12年、西木村立西明寺診療所と松木内診療所の所長となる。

■推薦方法と推薦基準

【推薦方法】 本賞受賞にふさわしいと思われる医師1人を各都道府県医師会会長が推薦

【推薦基準】 病を診るだけではなく、地域に根付き、その地域のかかりつけ医として、生命の誕生から看取りまで、さまざまな場面で住民の疾病予防や健康の保持増進に努めている医師。日本医師会の会員および都道府県医師会の会員で現役の医師(ただし、現職の日本医師会・都道府県医師会役員は除く)



公式ホームページ

元気！長生き！ 太陽生命

人生100歳時代を、
ずっと元気に生きていくために。
保険にはもってこい。できることがあると、
太陽生命は考えます。

たとえば認知症保険も、治療だけでなく、
予防のためにも使えるよう進化しています。
太陽生命の「ひまわり認知症予防保険」なら、
加入1年後から2年ごとに、
予防給付金が受け取れるので、
軽度認知障害(軽症)リスクの検査や、
様々な認知症予防のために活用できます。
変化し続ける時代のニーズに、
太陽生命は保険でお応えしていきます。

保険で、 認知症を 予防!?

ひまわり認知症 予防 保険

※当広告では選択額和型認知症診断保険に生存給付金特別を付したプラン「ひまわり認知症予防保険」としてご案内しています。

【太陽生命資料請求ダイヤル】 営業時間：月～金 9時～17時 ※電話以外は郵送専用にて資料請求いたします。
※祝日・年末年始(12/30～1/4)は休業します。

0120-04-22-33

(通話無料)

ごあ。保険の新次元へ。
T&D 保険グループ

第10回 日本医師会

赤い夜賞

赤い夜功労賞受賞者 (13人)

- 橘 秀貞(北海道) 今金町介護老人保健施設所長
- 今村 憲市(青森) 今村クリニック院長
- 丸山 博(千葉) 松戸クリニック理事長
- 鈴木慎太郎(東京) 昭和大学病院呼吸器・アレルギー・内科講師、診療科長補佐
- 吉田まゆみ(福井) 吉田医院副院長
- 露木 弘光(山梨) 露木耳鼻咽喉科医院院長
- 河合 俊(静岡) 河合クリニック院長
- 西城 英郎(三重) 西城外科内科院長
- 赤木 重典(京都) 京丹後市立久美浜病院院長
- 田中みずす(大阪) もり内科クリニック理事長・院長
- 山田 忠信(広島) 山田医院院長
- 星子 卓(福岡) 星子医院副院長
- 木原 晃一(鹿児島) 木原医院院長

選考委員コメント

- 羽毛田信吾委員** (昭和三十三年度、前宮内庁参事、脚地(へきち)や難島で活躍する医師の受賞がこれまで多かったが、今回、都市部でキャンセルやアルコール依存の人をケアする医師が選ばれ、「赤い夜先生」の定義を広めることができた点で大きな意義がある。
- 向井千秋委員** (東京理科大学特任副学長) 自分が医師として働いた経験があるので、選考で甲乙つけるのは覚悟が必要で難しい。そのなかでも、長年続けているかどうかや、年齢層・取り組みなどの多様性を重視した。大賞に女性が多いのは少し寂しい。
- 榎ふみ委員** (俳優) 選考では「私の主治医だったらどんな先生がいいか。をイメージしながら考えたが、他の委員の意見を聞きながら「こんな見方もあるのか。と余計に迷ってしまった。参加年数を重ねるごとに「赤い夜先生」に対する考え方は深まってきた。
- ロバート・キャンベル委員** (早稲田大学特命教授) 新型コロナウイルスの感染拡大のなか、大きな病院にスポットが当たりがちで、かかりつけ医の頑張りをもっと知られてほしいと思う。後進の医師が見習いたいと思う先生方が選ばれ、大きな意義がある。
- 河合雅司委員** (作家、人口減少対策総合研究所理事長) 第1回から選考に参加しているが、この10年でもっと甲乙つけ易い先生が増えてきているのを感じる。推薦される先生の年齢も若返っており、新たな人材がどんどん出てきているという点で心強く思った。
- 伊原和人委員** (厚生労働省医政局長) 厚労省にも医師がいることから、そういった職員とも議論しながら、厚生行政を担当する者として「社会的弱者への支援」「僻地への支援」といった観点で、甲乙つけ難かったが無理に点数をつけさせていただいた。

「主人」である患者の要望 最大限に

死を前にして、医師と特別な関係で暮らしては来ない。愛蔵品である山本五郎の「赤い夜」を手に取った。こんな患者に対しては、どうも治療を断る赤い夜医師の姿は、自分が目指した医療に通じている。28年前、生家から離れた診療所は、地域社会に開かれた「窓」になっていた。

「おれは、死ぬまで生きていく。死を前にして、医師と特別な関係で暮らしては来ない。愛蔵品である山本五郎の「赤い夜」を手に取った。こんな患者に対しては、どうも治療を断る赤い夜医師の姿は、自分が目指した医療に通じている。28年前、生家から離れた診療所は、地域社会に開かれた「窓」になっていた。

「主人」である患者の要望 最大限に

死を前にして、医師と特別な関係で暮らしては来ない。愛蔵品である山本五郎の「赤い夜」を手に取った。こんな患者に対しては、どうも治療を断る赤い夜医師の姿は、自分が目指した医療に通じている。28年前、生家から離れた診療所は、地域社会に開かれた「窓」になっていた。



診療する大石雅之医師
—横浜市市中区(飯田英男撮影)

おおいし、まさゆき 大石クリニック院長。昭和29年、広島市生まれ。68歳。東京慈恵会医科大学を卒業後、54年に同大麻酔科、56年には同大精神神経科に入局した。麻酔科講師(ひょうぼう)医、医学博士、精神保健指定医。平成3年に栃木県立岡本台病院の診療部長を退職し、横浜市市中区で大石クリニックを開業した。

境遇問わず治療に尽力

すきから・みのあるシャローム病院院長。昭和22年、埼玉県東松山市生まれ。74歳。信州大学医学部を卒業後、故郷にシャローム病院を開設。25年、同大助教を辞し、シャローム病院を唯一の緩和ケア病棟を開設し、がん患者のホスピスケアを本格的に開始した。



診療する齋藤裕二医師
—埼玉県東松山市(三尾郁恵撮影)

境遇問わず治療に尽力

すきから・みのあるシャローム病院院長。昭和22年、埼玉県東松山市生まれ。74歳。信州大学医学部を卒業後、故郷にシャローム病院を開設。25年、同大助教を辞し、シャローム病院を唯一の緩和ケア病棟を開設し、がん患者のホスピスケアを本格的に開始した。

辛抱と温情で「心の病」に寄り添う

八代海軍少佐(現島)で唯一の医師と謳われた佐藤立行氏。現職は、熊本市東区にある「立行クリニック」で内科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、麻酔科と幅広い診療科目をこなしている。2010年に開業した。現在は、熊本市東区にある「立行クリニック」で内科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、麻酔科と幅広い診療科目をこなしている。2010年に開業した。

境遇問わず治療に尽力

すきから・みのあるシャローム病院院長。昭和22年、埼玉県東松山市生まれ。74歳。信州大学医学部を卒業後、故郷にシャローム病院を開設。25年、同大助教を辞し、シャローム病院を唯一の緩和ケア病棟を開設し、がん患者のホスピスケアを本格的に開始した。

辛抱と温情で「心の病」に寄り添う

八代海軍少佐(現島)で唯一の医師と謳われた佐藤立行氏。現職は、熊本市東区にある「立行クリニック」で内科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、麻酔科と幅広い診療科目をこなしている。2010年に開業した。

境遇問わず治療に尽力

すきから・みのあるシャローム病院院長。昭和22年、埼玉県東松山市生まれ。74歳。信州大学医学部を卒業後、故郷にシャローム病院を開設。25年、同大助教を辞し、シャローム病院を唯一の緩和ケア病棟を開設し、がん患者のホスピスケアを本格的に開始した。

島とともに歩み 住民の健康担う

八代海軍少佐(現島)で唯一の医師と謳われた佐藤立行氏。現職は、熊本市東区にある「立行クリニック」で内科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、麻酔科と幅広い診療科目をこなしている。2010年に開業した。

境遇問わず治療に尽力

すきから・みのあるシャローム病院院長。昭和22年、埼玉県東松山市生まれ。74歳。信州大学医学部を卒業後、故郷にシャローム病院を開設。25年、同大助教を辞し、シャローム病院を唯一の緩和ケア病棟を開設し、がん患者のホスピスケアを本格的に開始した。

島とともに歩み 住民の健康担う

八代海軍少佐(現島)で唯一の医師と謳われた佐藤立行氏。現職は、熊本市東区にある「立行クリニック」で内科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、麻酔科と幅広い診療科目をこなしている。2010年に開業した。

境遇問わず治療に尽力

すきから・みのあるシャローム病院院長。昭和22年、埼玉県東松山市生まれ。74歳。信州大学医学部を卒業後、故郷にシャローム病院を開設。25年、同大助教を辞し、シャローム病院を唯一の緩和ケア病棟を開設し、がん患者のホスピスケアを本格的に開始した。

元気!長生き! 太陽生命

保険に入って、元気になる時代へ。

もし、病気に「ならないため」に使える保険があったら。

予防給付金*+一時金最高2000万円

加入の1年時から2年ごとに検査で使える予防給付金を受け取れ、がんと診断された時、所定の重大疾病状態に該当の場合は一時金でしっかり保障します。

*1 予防給付金の受給には生命保険付帯特約の付加が必要です。

アミノインデックス®リスクスクリーニング**

高度検査で腸癌のがんの可能性、脳卒中・心臓病、糖尿病の発症リスクを評価します。

**2 この検査は確定診断するものではありません。

予防する 備える

がん・重大疾病 予防 保険

※3 この保険は、10日間疾病保障期間に生存給付金特別付加し、その予防給付金を疾病予防給付金として活用いただけるという思いから「がん・重大疾病予防保険」という名称を使用しています。

スマホでスマート、お申し込みカンタン。 **太陽生命** **T&D 保険グループ**